

- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
- 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
- 1 働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
- 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
- 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

古代のロマンを求めて



銅 鈴

最近の発掘調査から

掘された大蔵跡はその典型です。大蔵というのは、古代に都へ諸国から集められた金・銀・玉といった宝石類や布・鉢・鎧といった日用雑貨などのさまざまな物品を収めておく所で、その一部は役人達に給料として配られました。このため、蔵の周囲には火災や盗難を防ぐ厳重な施設が設けられています。

今年に入ると、上植野町十ヶ坪で青銅製の鈴が発見されました。三センチ前後の小さな鈴ですが、振ると音が響きます。発見された所は都の中心大極殿から南東へ一・二キロメートル程の町の一角で、直径四十七センチもある大きな柱を

今年に入ると、上植野町十ヶ坪で青銅製の鈴が発見されました。三センチ前後の小さな鈴ですが、振ると音が響きます。発見された所は都の中心大極殿から南東へ一・二キロメートル程の町の一角で、直径四十七センチもある大きな柱を

長岡京跡に初めて鍬が入られ、今年でちょうど三十年になります。最近の調査のベースは早く、すでに三百回を超えました。こ

こ一年間を振り返ってみても、三十年前に想像もできなかつた都の姿が明らかになってしまった。

昨秋、西山高等学校で発

解明すすむ往時の姿

ました。調査では、その一部である池や溝、堀の跡も発見されました。同時に発見された鬼瓦は平城京で使われたものですが、つりあがみあがらせるに十分でした。

は、屋根の上にあって悪魔を追い払い、盜賊達をちらつかせます。

最近では上植野町野上山で、都のメインストリートである朱雀大路が発見されました。本来八十メートルの幅を持つ大通りであ

るはずの朱雀大路が、六十メートル足らずしかなく、

大屋根にそびえる鶴尾の建物が整然と並んでいました。軽やかな鐘の音は、都容は、まだまだ堅穴住居に住むことの多かつた農民達を威圧するに十分でした。

こうした成果は、雨の日を除いて毎日続けられる発掘調査の地道な努力と、市民の皆さんとの理解とご協力によるものです。つい先日も、鶴冠井町馬司での調査で、厚さ〇・一ミリ程度しかない木簡が発見されました。現場から土ごと取りあげられた木簡はただに

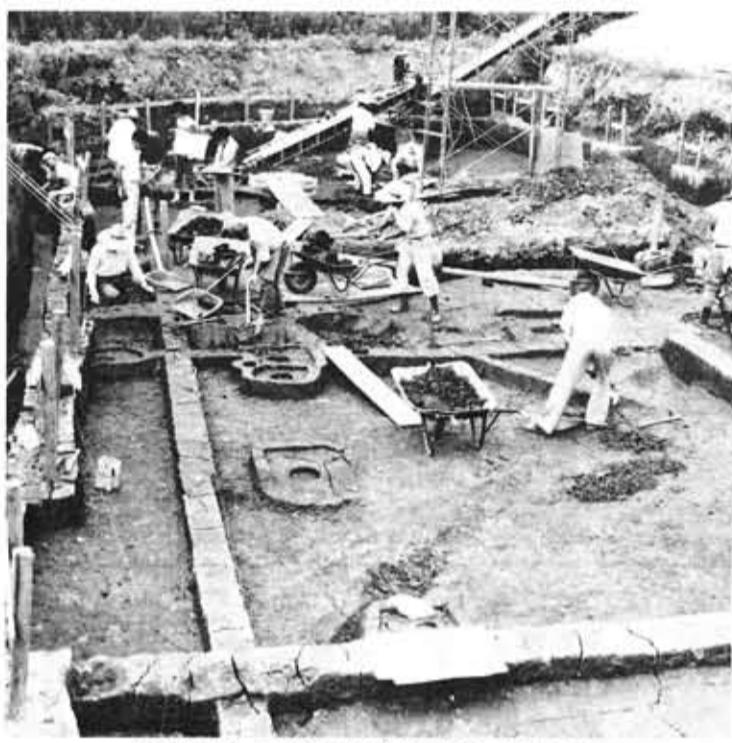
土中から出るもの(遺物)にかかるようになつて、七年間があつといふ間に過ぎ去つてしまつた。発掘調査をして出土する遺物は、調査の真撮影等の記録を経て、報告または収納されます。発掘調査が、現実とは異質な時間・空間を現出させる一種の荒々しさを持つとすれば、遺物整理はひたすら静的であると言えます。遺物にたゞさわりながら向かう時間は、私が生きてきた時間や私がかかわる季節あるいは私のお腹に子供がいたときの長さとは異質な、観念的にとらえなければならないものです。要求されるのは徹底した写真主義と科学的精神であり、ロマンのひとかけらもなく、なかなか自分自身で得心するものにはなり得ないものです。

今年は、長岡京遷都千二百年にあたり、向日市

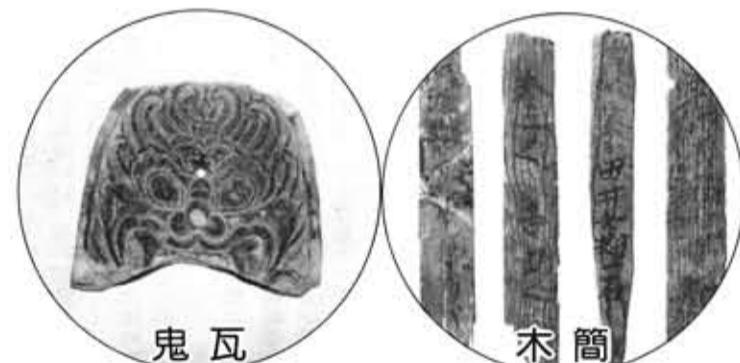
でも文化資料館の開館が今秋予定されています。

この貴重な文化財をいつまでも大切に守つていただきたいと考えています。

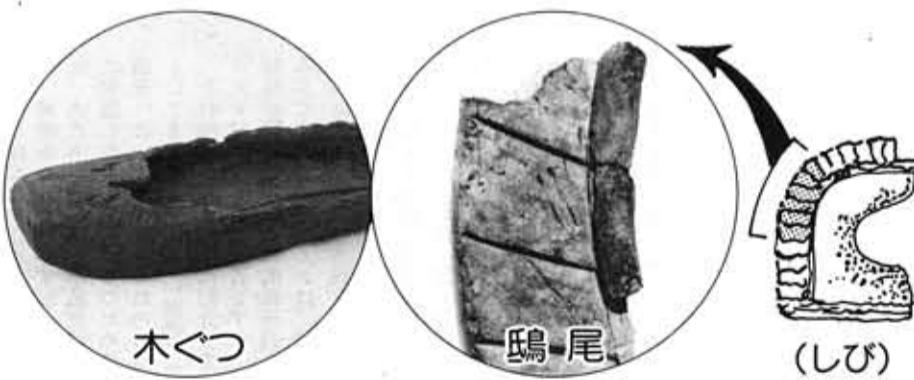
長岡京発掘調査30年



発掘中の鶴冠井町馬司現場



鬼 瓦 木 簡



木ぐつ 鶴 尾 (しひ)

(しひ)



実測記録作業中の藤田さかえさん

洗浄作業中の大井さん
・和田さん・柳川さん
「泥にまみれた遺物から古代の文字が浮かびあがつた時は感激です。」発掘作業中の清水さん
・赤沢さん・木村さん
「こまかい根気のいる仕事ですが、どんな遺物が出てくるか楽しみです。」